

新湾岸道路プロジェクト

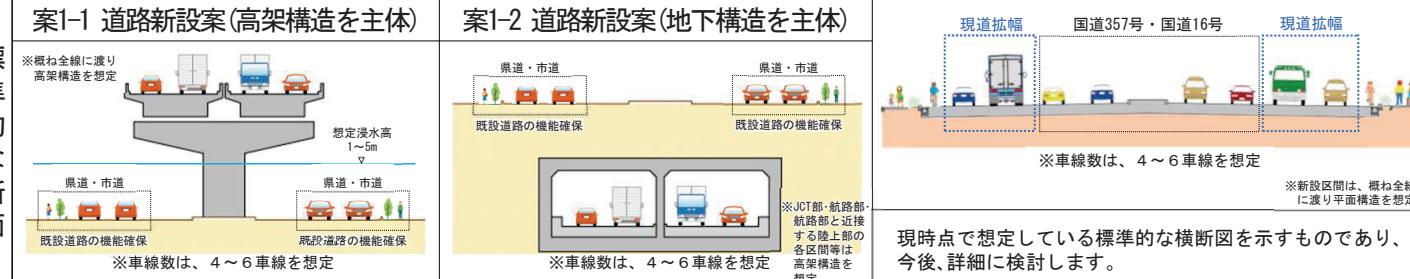
新湾岸道路（外環高谷JCT周辺から蘇我IC周辺ならびに市原IC周辺）

複数案（ルート帯・構造）を提示します

～是非、みなさまのご意見をお寄せください～



標準的な断面



ホームページ

■ 国土交通省千葉国道事務所 新湾岸道路ポータルサイト
https://www.ktr.mlit.go.jp/chiba/chiba_index080.html



新湾岸道路の概要や有識者委員会の会議
資料、今後のコミュニケーション活動の詳細
等がご確認いただけます

アンケート調査を実施しています

WEBアンケートサイト
<https://form.run/@shinwangandou2>



アンケート募集期限
令和7年10月5日(日)まで

新湾岸道路プロジェクトにおけるコミュニケーション活動の運営主体
国土交通省千葉国道事務所、千葉県、千葉市、市川市、船橋市、習志野市、市原市、浦安市

オープンハウス(令和7年7月31日～10月5日)で使用した資料より抜粋

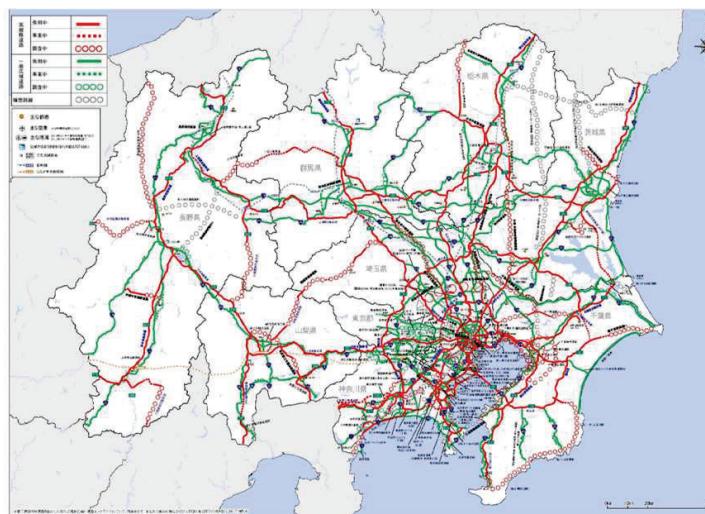
新湾岸道路の概要

新湾岸道路について

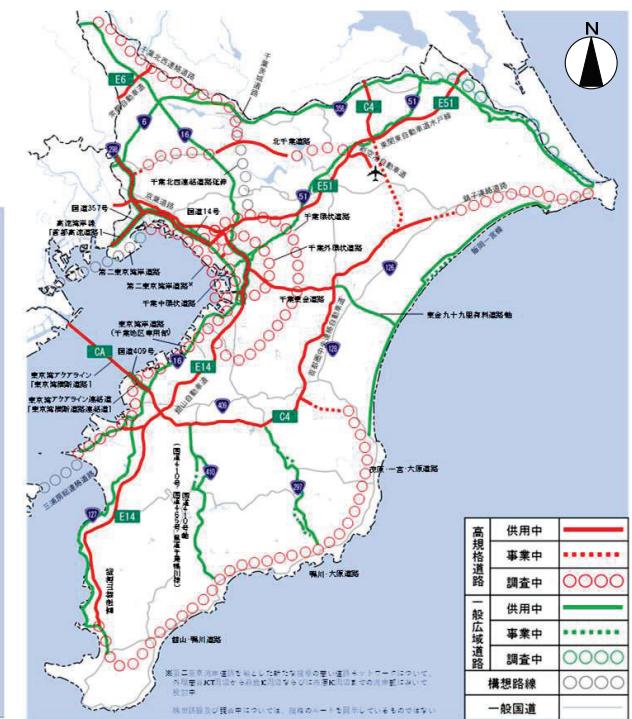
- 「新湾岸道路」は、外環高谷JCT周辺から蘇我IC周辺ならびに市原IC周辺を結ぶ高規格道路として調査中の道路です。
- 千葉県湾岸地域は、首都圏の経済活動を支える重要な拠点を有し、今後も港湾機能の強化や物流施設の立地等に伴う交通需要の増大が見込まれる一方、慢性的な交通渋滞が発生しており、交通円滑化が喫緊の課題となっています。
- 新湾岸道路の計画の具体化にあたっては、広く関係する方々の意見を把握しながら丁寧に合意形成を図る必要があるため、新湾岸道路有識者委員会の助言をいただきながら検討を進めています。

計画の位置付け

『関東ブロック新広域交通ビジョン・計画』及び
『千葉県広域道路交通ビジョン・千葉県広域道路
交通計画』において、第二東京湾岸道路を軸とした
新たな規格の高い道路ネットワークを高規格道路に
位置付け



出典: 『関東ブロック新広域交通ビジョン・計画 (R3.7 関東地方整備局)』
※概ねのルートを示しているものではない



出典: 『千葉県広域道路交通ビジョン 千葉県広域道路交通計画
(R3.6 千葉県)』
※概ねのルートを示しているものではない

湾岸地域の状況



湾岸地域は人・モノの流れが集中しています
慢性的な交通渋滞の解消が喫緊の課題です



今後も港湾機能の機能強化や物流施設等
の立地が計画されています

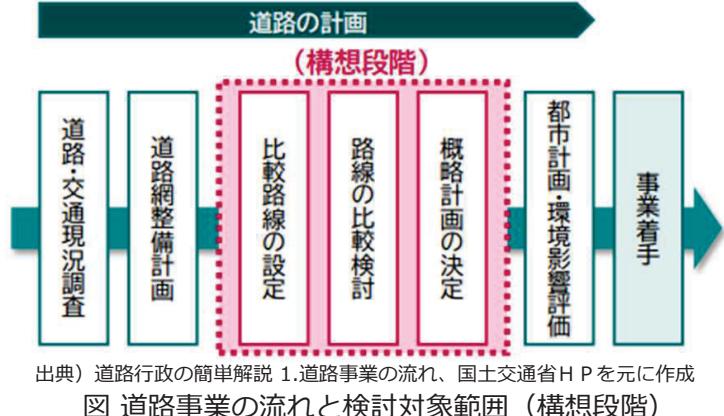
新湾岸道路の進め方

構想段階(概略ルート・構造)

- 新湾岸道路の計画の具体化は、詳細な計画(都市計画)を定める前に、先ず概略ルート・構造を示した概略計画を定めます(構想段階)。

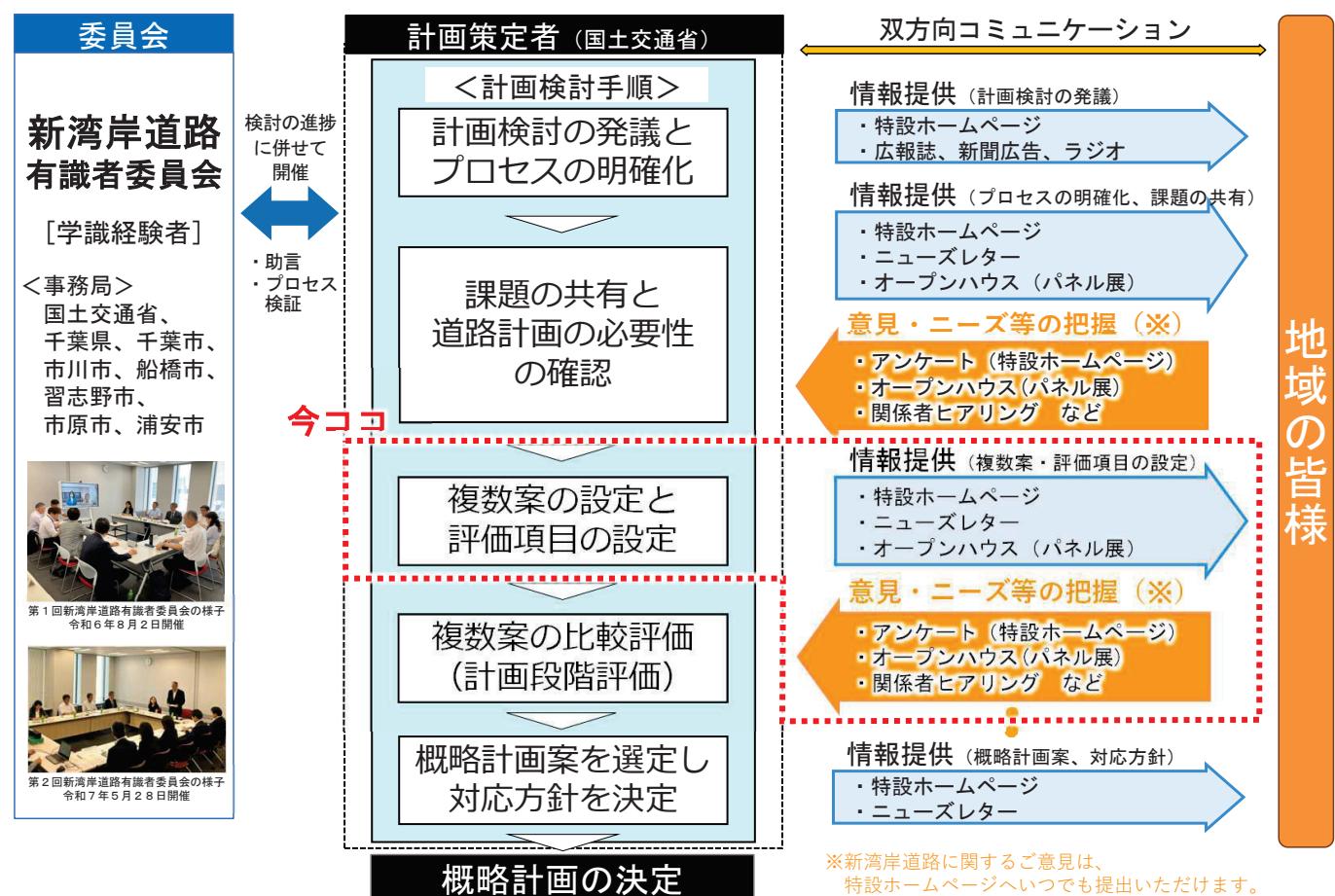
○新湾岸道路の構想段階(概略ルート・構造)の検討では、検討過程から皆様とコミュニケーションを重ねながら手続きを進め、都市計画の決定に向けて基本的な事項を検討していきます。

○様々なコミュニケーションの機会を通じて、広く関係する方々の意見を把握しながら丁寧に合意形成を図ります。



構想段階の進め方

- 新湾岸道路は、構想段階における道路計画策定プロセス※を通じて概略計画を策定します。
- 新湾岸道路の構想段階(概略ルート・構造)の検討は、段階的に検討を進め、その都度様々な方法で地域の皆様とのコミュニケーションを重ね、ご意見や有識者委員会からの助言を踏まえながら進めます。



「達成すべき目標」「配慮すべきこと」「道路計画の必要性」

寄せられたご意見を踏まえ「達成すべき目標」「配慮すべきこと」を設定しました

第1回コミュニケーション活動で皆様から寄せられたご意見を意見要旨として整理し、新湾岸道路の達成すべき目標と配慮すべきことを、以下の11項目に設定しました。

達成すべき目標

交通渋滞	交通事故	医療	防災
高速道路・幹線道路の適切な機能分担による交通混雑の緩和	高速道路への交通転換を促進し、事故発生時にも代替経路が確保される道路ネットワークの形成	交通の円滑化による医療施設への速達性や定時性の確保	災害発生時の避難・復旧を支える道路ネットワークの構築
物流・産業・観光	港湾・空港拠点アクセシビリティ	生活環境	生活道路事故の解消や歩行者・自転車の安全性を高める骨格道路ネットワークの形成
地域経済の発展を支える産業拠点・観光拠点への速達性とアクセス性の向上	千葉港や成田・羽田空港へのアクセス性と時間信頼性の向上		

配慮すべきこと

自然環境	景観	居住環境	経済性
豊かな自然環境への配慮	海辺の眺望景観の保全	居住環境(沿道環境、海とのつながりやレクリエーション等)の保全	事業費

「達成すべき目標」を達成するためには、新たな道路計画が必要

湾岸地域における「達成すべき目標」を達成するには、新たな道路計画の検討が必要であり、新湾岸道路有識者委員会でも了承が得られています。

湾岸地域における新たな道路計画の検討においては様々な可能性を踏まえつつ、湾岸地域の自然環境や景観、居住環境、経済性にも十分に配慮しながら検討を進めていきます。

達成すべき目標	新たな道路を整備しない案
交通渋滞	高速道路・幹線道路の適切な機能分担による交通混雑の緩和
交通事故	高速道路への交通転換を促進し、事故発生時にも代替経路が確保される道路ネットワークの形成
医療	交通の円滑化による医療施設への速達性や定時性の確保
防災	災害発生時の避難・復旧を支える道路ネットワークの構築
物流・産業・観光	地域経済の発展を支える産業拠点・観光拠点への速達性とアクセス性の向上
港湾・空港拠点アクセシビリティ	千葉港や成田・羽田空港へのアクセス性と時間信頼性の向上
生活環境	生活道路事故の解消や歩行者・自転車の安全性を高める骨格道路ネットワークの形成

※渋滞への対処として、TDM等の交通量の抑制策があるが、物流等も含め大きな役割を担う国道357号の交通量を勘案すれば、新たな道路を整備することなしに交通量の抑制策のみでは、物流・産業等を含めた目標の達成は困難

新たな道路計画が必要

※新たな道路を整備しない案は、複数案の設定において、比較評価のベースラインとして提示

複数案（ルート帯と構造）について、どう思われますか？



	案1 道路新設案		案2 現道拡幅案(一部道路新設)	概略計画とは
ルート概要	沿線市の市街地や自然環境(三番瀬や谷津干潟)を避け、既存の公共用地を有効活用し、千葉港や京葉臨海工業地帯へのアクセス性を重視した自動車専用道路を全線新設するルート案			概略計画では、新たな道路について、①起終点、②車線数などの諸元、③概ねのルート(ルート帯)、④主な連絡する道路、⑤主たる構造、⑥その他必要な事項を定める計画です。概ねのルートは、250m～1km程度の幅を持つルート帯として図示され、後に定める都市計画の案の前提となります。ルートが通過する土地の範囲を規定するものではありません。
標準的な断面(イメージ)	案1-1 道路新設案(高架構造を主体) ※概ね全線に渡り高架構造を想定	案1-2 道路新設案(地下構造を主体) ※車線数は、4～6車線を想定	現道拡幅 国道357号・国道16号 現道拡幅 ※車線数は、4～6車線を想定	ルート帯の幅=250m～1km程度 主な連絡道路 起点 終点 概ねのルート(ルート帯)
	 ※車線数は、4～6車線を想定	 ※車線数は、4～6車線を想定	 ※車線数は、4～6車線を想定	出典) 構想段階における道路計画策定プロセスガイドライン、平成25年7月、国土交通省道路局、国土交通省HPを元に作成

現時点で想定している標準的な横断図を示すものであり、今後、詳細に検討します。